

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム大東ヶ丘)

事業所番号	0272400771		
法人名	社会福祉法人 叶福祉会		
事業所名	グループホーム大東ヶ丘		
所在地	青森県五所川原市金木町芦野363-141		
自己評価作成日	平成22年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①事業所を活かす役割として、組織で処遇に対する年間計画の冊子(マニュアル)を作成し、毎年職員会議を開催し、全職員の共通理解を図っている。
- ②利用者の地域支援として、地域や地域の方々には事業所の役割や機能をアピールする点で、夏祭りや地域で行う文化祭等に参加している。
- ③利用者の支援として、面会のほか、利用者と家族の触れ合う機会を設けるため面会行事を実施している。
- ④災害対策として、毎月1回、避難訓練を実施し、うち1回は消防署立会いのもとに指導を受けている。8月に夜間避難訓練を実施し、日頃から災害に対する体制を整えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272400771&amp;SCD=320">http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272400771&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月12日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の安全安心を第一に豊かな老後を送れるようミーティングや毎月の勉強会等で理念を確認し合い、理念の共有と実践を図っている。近隣に民家は少なく、日常的な交流の機会が少ないが、法人全体の夏祭りや収穫祭には広報を通じて呼びかけを行っており、地域の方々や小中学生の交流の機会を作っている。また、踊りの会の訪問や実習生の受け入れを積極的に行っている。日常のコミュニケーションから利用者の思いや意向の把握に努めており、必要に応じ家族や母体法人の職員から情報を得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①管理者・職員は地域密着型サービスの役割を理解している。 ②職員は理念の意味を理解し、日々のサービス提供場面に反映させている。	「安全で安心して豊かな老後生活を送ることのできるホームの運営に努める。」という事業所独自の理念が作成されており、ミーティングや毎月の勉強会等で理念を確認し合い、理念の共有と実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	①事業所の立地する地域の町内会や民生委員等の地域資源に関わりながら事業所を理解してもらうとともに、交流を図るための働きかけを行っている。	近隣に民家は少なく、日常的な交流の機会が少ないが、法人全体の夏祭りや収穫祭には広報を通じて呼びかけを行っており、地域の方々や小中学生の交流の機会を作っている。また、踊りの会の訪問や実習生の受け入れを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①見学や認知症に関する相談、実習生等を受け入れたり、地域との交流を積極的に行っている。 ②外部の人を受け入れる際には、利用者のプライバシーには、十分配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①会議では、報告や情報交換を行うほかに、メンバーの意見を引き出し、それを今後の取組みにつなげていく取組みを行っている。 ②会議では、自己評価及び外部評価の結果について説明している。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、ホームの理念や運営、事業計画等について協議している。自己評価や外部評価の結果についても報告されており、会議で出た意見は真摯に受け止め今後のサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	①運営推進会議には、市町村職員または地域包括支援センター職員が参加している。 ②市町村へ、ホームのパンフレットや広報誌等を配布している。 ③ホームの実態等を理解してもらうために、「自己評価および外部評価票」を提出し、報告を行っている。	運営推進会議には市町村職員、または、地域包括支援センター職員が毎回出席し、運営面の相談があった場合には、電話や直接出向いて相談を受けている。広報誌やパンフレットも配布しており、自己評価、外部評価の結果も報告している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>①身体拘束（施錠も含む）は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。</p> <p>②玄関や居室等は施錠しない等、利用者が自由に入出りできるよう工夫している。</p> <p>③やむを得ず身体拘束（施錠も含む）を行う場合は、家族等に説明を行い、同意を得ている。</p>	<p>全職員が身体拘束の弊害について理解しており、身体拘束をしない方針で、日常のケアを行っている。万が一拘束しなければならなくなったときは理由等を説明し、同意を得る体制となっている。日中は玄関非常口等の施錠はされておらず、無断外出に備えて、母体法人や地域に協力を呼び掛けている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>①外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて、全職員が高齢者虐待防止法に関する理解を深める取り組みを行っている。</p> <p>②高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めがある。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>①外部研修への参加や内部研修の実施等を通じて、全職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深める取り組みを行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>①契約時は、利用者や家族等に、事業所の理念等ケアの方針や取り組み等について説明している。</p> <p>②利用料金等、契約を改定する際には、利用者や家族等に十分に説明を行い、同意を得ている。</p> <p>③退居の際には、契約に基づき、利用者や家族等に十分に説明を行い同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>①家族等が意見を出しやすいよう、利用者の暮らしぶりや健康状態、受診状況、金銭管理状況、職員の異動等を定期的に家族に報告している。</p> <p>②出された意見や苦情等を検討し、速やかな対応を行う体制が整備されている。</p>	<p>家族等が意見を出しやすいように、入所申込み時や面会時にいつでも相談に応じることを説明している。また、健康状態や金銭管理の状況を定期的に報告し、意見が出された場合はミーティングで話し合う等の体制がとられている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①職員から出された意見が反映される仕組みが整えられている。 ②異動等を行う場合は、利用者に与える影響を最少にするための配慮を行っている。	利用申込みがあった場合は、職員の話し合いによってケアの方針を検討する等の機会を設けている。法人全体で3施設あり、職員にも経験を積ませたいために異動は行うが、職員の意見を聞きながら勤務体制や異動等を検討し、馴染みの関係作りをするため事前研修の機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①運営者は、現場の状況のほか、職員の日々の努力や勤務状況等を把握している。 ②健康診断の実施等、職員の心身の健康を保つための体制を整えている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①研修受講後は、内容を日々のケアに活かせるよう、報告会や伝達研修を行う等、全職員に周知している。 ②研修受講の際は、日々のケアに支障を来さないよう、勤務体制等に配慮している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	①同業者との交流・連携を通じて、日々のサービスの向上や職員育成につなげるために具体的に取り組んでいる。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①サービス利用の相談があった時には、利用希望者や家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①利用を前提として話を進めるのではなく、利用希望者の身体状況や思い、希望等を把握するよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、その時点で何が必要かを見極めている。 ②すぐに対応できないことに対しては方策を検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①職員は、利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するよう努めている。 ②利用者には得意分野で力を発揮してもらおう等、利用者と職員が共同しながら生活している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①家族との情報交換を密に行うこと等により、これまでの介護経験やサービス利用中である現在についての家族の思いを把握している。 ②利用者の様子や、職員及び家族の思いや気づきを共有する等の取り組みにより、利用者を共に支える関係を作るよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している ②希望等に応じて、利用者にとっての馴染みの場所に出かけられるよう支援している。	アセスメントによりこれまでの暮らしぶりや趣味、嗜好を把握しており、お盆や正月の一時帰宅等の支援をしている。また、普段なかなか会えない人との電話の取次ぎの支援も行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①職員は、利用者同士が共に助けあい、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。 ②利用者が孤立しないよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を利用者や家族等に示している。 ②必要に応じて、家族の相談に応じる等これまで築いてきた利用者や家族との関係を継続するよう努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①職員は、利用者の思いや希望、意向を把握するよう努めている。 ②利用者の意向等が十分に把握できない場合は、全職員が利用者の視点に立って意向等を把握するよう努めている。	日常のコミュニケーションから利用者の思いや意向の把握に努めており、必要に応じ家族や母体法人の職員から情報を得ている。意思表示ができない人には、日常の積み重ねから、利用者の意向を汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①利用者の生活歴やライフスタイル個性、価値観等を把握している。 ②利用者のプライバシーに配慮しながら利用者の背景に関する情報の大切さを家族に伝えとともに、利用者の生活歴等について家族から情報収集を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①利用者の1日の暮らし方や生活リズム（食事や睡眠、排泄の時間、生活習慣、1日の中でどのような体調変化があるか等）を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①介護計画は、全職員の意見や気づきを基に職員間で十分に話し合い作成している。 ②必要に応じて、家族や関係者等、利用者をよく知る人たちの意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。	日々接する中で利用者の希望や意向の把握に努め、介護計画に反映させる取組みを図っている。毎月モニタリングを行い、3ヶ月に1度計画の見直しを行っている。また、状況の変化により随時見直しをし、必要に応じ関係者から情報を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況等について具体的に記録している。 ②記録の内容を全職員が共有することができる仕組みを整えている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①警察署や消防署、公民館や図書館等の地域資源を活用できるよう働きかけを行っている。 ②地域包括支援センターや地域のサービス事業者、関係団体、民生委員、住民等によって構成される人的ネットワーク組織の構築に向けて協働している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。 ②必要に応じて、認知症の専門医や歯科眼科の受診を支援している。 ③受診結果は、利用者や家族等との共有が図られている。	入所前からの受診状況を把握しており、これまでの医療機関を受診できる体制を取っている。専門医療機関の受診や家族等が希望する医療機関への受診についても対応しており、受診状況は家族へ報告されている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①看護師の資格を持った職員の配置の確保ができていない。 ②訪問看護ステーションとの連絡体制が整えられていない。 ③介護職員は、利用者の身体状況に変化があった時、看護職に伝えるポイントを理解している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	①医療機関と利用者に関する情報交換や状況に応じて早期退院に向けた話し合いを行う体制が整えられている。 ②退院に向けた支援体制について、家族も含めた話し合いを行う体制が整えられている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	①利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にしている。 ②日常的な健康管理や急変時の対応について利用者や家族等、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。	重度化や終末期への対応はしていないが、急変時の対応マニュアルを作成している。病状の急変に対して家族や医療機関と意思統一を図っているが、重度化や終末期の対応についてマニュアル等によって明確にするまでには至っていない。	急変時の対応マニュアルを作成しているが、重度化や終末期への対応方針について、利用者や家族に説明するための文書の整備に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①夜間の対応も含めて、応急手当やその後の連絡、対応方法等に関する緊急時対応マニュアルが作成されている。 ②全職員が応急手当や救急救命の研修を受講している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①日中だけではなく、夜間も想定した具体的な避難誘導策が作成されている。 ②いざという時に適切な避難誘導が行えるよう、職員と利用者が一緒に定期的な訓練を行っている。	毎月、母体法人を含めて避難訓練を行っている。総合訓練には消防署の協力も得て実施している他、夜間を想定した訓練も年2回実施しており、内1回は実際に夜間の訓練も行っている。また、災害時に備えて、食糧等の備蓄をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①利用者の言動を否定したり拒否していない。 ②介助時や声がけ時は利用者の羞恥心に配慮している。 ③利用者のプライバシーに配慮して業務を行っている。	ミーティング等で利用者への声掛けの対応について話し合われており、利用者の言動を否定することなく、プライバシーに配慮したケアにあたっている。また、職員は守秘義務や個人情報の保護の取り扱いを理解している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①利用者の力量に応じて、自己決定を促す場面を積極的に作っている ②把握している利用者の希望等を基に、複数の選択肢を提示する等、利用者を選んでもらう場面作りを行っている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①職員の都合やスケジュールに合わせるのではなく、出来る限り、利用者一人ひとりが持っているペースや望んでいるペースに合わせて支援している。 ②利用者のその日の希望、身体・精神状況に合わせた柔軟な支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①利用者の個性や希望等を尊重し、利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれができるよう支援している。 ②衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①利用者の状況や意思等に応じて、調理の準備や後片付け等を促し、職員も一緒に行っている。 ②食べこぼし等へのサポートを行いながら、利用者との会話を楽しみながら食事時間を過ごしている	母体施設の栄養士が献立を作成しており、嗜好調査により好みや苦手な物について把握している。苦手な物については代替えを出す配慮をしている。職員は食卓と一緒につき、食べこぼし等をサポートをしながら、会話を楽しみ食事を摂っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①1日の食事摂取量を概ね把握している。 ②1日の水分摂取量を概ね把握している。 ③献立や栄養摂取状況等について、栄養士等の専門家から指導・助言を得られる体制となっている。			
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後に口腔内の洗浄や入れ歯の手入れ等を行っている。 ②声がけや一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	①パターンに応じて事前誘導を行う等、自立に向けた支援を行っている。 ②おむつやパットを使用している利用者がある場合には、おむつの使用を継続するかどうか等の見直しを随時行っている。	排泄回数を記録しており、利用者の個々の排泄パターンを把握し、尿意や便意の確認や失禁等の対応には利用者の羞恥心に配慮している。また、おむつ使用者について、継続使用が必要かどうかの検討も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①1日の食事や排泄、活動状況等を見直し、自然排便を促す工夫を個別に行っている。 ②下剤や浣腸等を使用している場合には、個々に合わせた使用量や頻度となっており、安易に薬に頼らない工夫を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	①入浴を拒否する利用者に対しては声かけや対応等の工夫を行っている。 ②利用者の習慣等に配慮しながらもつかりすぎや洗身等に対して適切な支援を行っている。	週2回入浴日を設けている他、希望により随時入浴できる体制をとっている。羞恥心にも配慮し、同性介助も行われ、つかりすぎないように声掛けしたり、洗身の支援をしている。入浴を拒否する利用者に対しては、声掛けや時間帯等の工夫により入浴を促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①眠れない利用者については原因を見極め、本来のリズムを取り戻せるよう、1日の生活リズムを整えるよう支援している。 ②必要に応じて、家族や医療機関と相談しながら、眠剤の服用等についての調整を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①服薬が利用者の心身の安定につながっているか、服薬による副作用がないか、日常的に確認している。 ②服薬による状態の経過や変化は記録に残すとともに、家族や医師に報告し、話し合いを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①利用者の生活歴や希望、力量等を把握している。 ②利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとを促す働きかけを行っている。 ③入居者の状態に配慮しながら、嗜好品を暮らしの中に取り入れている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①利用者の楽しみや気分転換等につながるよう、日常的に外に出る機会を作っている。 ②利用者の身体状況に合わせて、移動方法や移動距離に配慮した支援を行っている。 ③利用者の希望が叶えられるよう、必要に応じて家族等に協力を呼びかけている。	日常生活の中で利用者の行きたい場所を把握するようにしている。週に1回はドライブに出かける等外出の機会を確保し、利用者の希望に配慮し、外食の機会を設けたりしている。また、天候を考慮しながら散歩や栗拾い等に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①金銭管理を行っていない利用者でも、買い物時には支払いを行ってもらう等の支援を行っている。 ②個々に応じた金銭の額や用途に関する相談・報告等、家族等と相談して合意を得ている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①利用者に来る電話や手紙を歓迎する等利用者が家族や知人等に電話や手紙をしやすい雰囲気作りを行っている。 ②会話内容や手紙の内容が他の利用者には知られないよう、プライバシーに配慮している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①テレビや音楽等の音量は適切である。 ②日射しや照明等、室内の明るさは適当である。 ③事業所内は、適切な温度・湿度が保たれている。 ④季節を感じる事ができる工夫が行われている。	ホールにはソファが置かれている他、絨毯を敷いて自由にくつろげるようになっている。日差しはカーテンで調節できるようになっており、室内の明るさは適当なものとなっている。また、季節を感じさせる工作物や観葉植物が飾られ、居心地良い空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①共用空間に、利用者が一人で、あるいは数人で過ごせる場所を確保している。 ②利用者同士の関係性等に配慮した居場所作りや環境作りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①入居前から使用していたり愛用していたもの等、なじみの物を持ってきてもらうよう家族に積極的に働きかけを行っている。 ②居室への持ちこみが少ない場合等は、利用者の意向を確認しながら職員と利用者が一緒に一人ひとりに合った居室作りを行っている。	ベッド以外は、寝具、タンス等自分のものが持ち込まれ、自分が作った工作物が飾られていたり、利用者が生活しやすいように、職員が支援しながら利用者一人ひとりにあった空間作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①利用者の身体状況に応じて、手すりを増設したり、玄関にスロープを取り付ける等の対応を行っている。 ②事業所内の気になる汚れや紛らわしい表示等、利用者の混乱を招くような環境の要因に対して、速やかに改善につなげるための工夫を行っている。		